

平成28年度
学校評価の結果と考察
(平成29年2月2日)



体育館東側で咲く紫苑（しおん）

上田市長和町中学校組合立
依田窪南部中学校

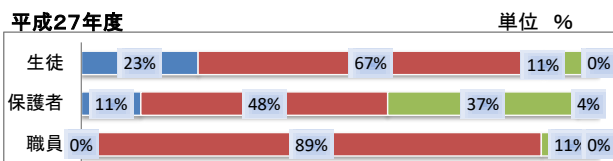
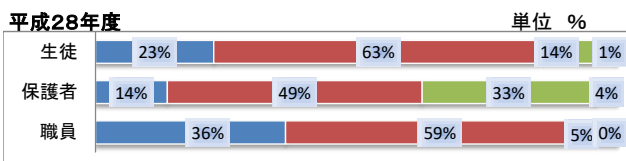
平成28年度 学校自己評価

1. 結果と考察

* グラフ左から A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:ややあてはまらない D:あてはまらない
 * パーセンテージは小数点以下を表示していないので、合計値が100%になっていない項目もあります。

【質問項目1】 学習内容の理解

【生徒】 教科の学習内容が理解できた。
 【保護者】 生徒(お子さん)は、学校の授業の中で、教科の学習内容が理解できている。
 【職員】 ねらいを明確にして手立てを工夫し、生徒一人ひとりのねらいの達成を見届けることで、生徒の学習内容の理解を深め、学力の定着を図ることができた。

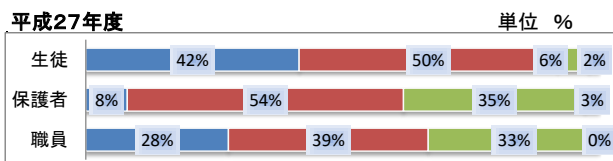
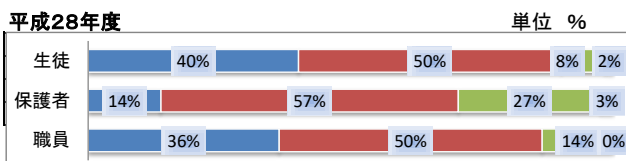


<考察>

今年度、1時間の授業のねらいを明確に板書したり、授業の終末で生徒の達成度を見届けたりすることに力を入れてきた。そのため、また、各種学力調査等の結果にも少しずつ向上が見られたこともあり、職員のA評価の割合が増加した。保護者のA評価も若干増加したが、全体の傾向としては、生徒の理解度は、昨年度とほぼ同様の割合にとどまっている。さらに、生徒が「わかった」と実感できる授業づくりに努め、保護者の方にも生徒の力の伸びが伝わるように、定期テストの得点力向上も図っていきたい。

【質問項目2】 学習への取り組み(グループ学習)

【生徒】 友達と情報交換をしたり関わり合ったりすること(全体・グループ・ペア等)で、意欲的に学習に取り組むことができた。
 【保護者】 授業参観の姿や生徒(お子さん)の話から、生徒(お子さん)が授業に興味を持って意欲的に取り組んでいると感じられる。
 【職員】 互いに学び合う機会(全体・グループ・ペア等)を授業に取り入れることで、生徒が意欲的に学習に取り組むことができた。

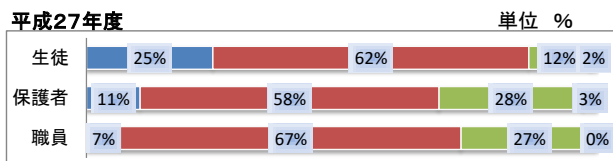
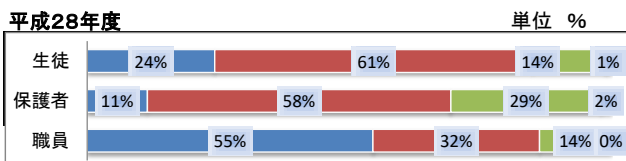


<考察>

A評価とB評価を合わせた割合を見ると、生徒は昨年度とほぼ同様に高評価であるが、保護者、教員の評価は大幅に向上している。また、現2、3年生は1年時、2年時と比べ、評価が向上している。学年が上がるにつれて、グループ学習への取り組みが意欲的になっていることの流れである。しかし、保護者の評価は向上しているものの、まだまだ生徒の評価との間に差があるので、「家庭でも意欲的に学習する姿が見られるような指導のあり方」を各教科で工夫して取り組んでいく必要がある。

【質問項目3】 授業の工夫や改善

【生徒】 教科の授業では、学習の仕方や教材などが、わかりやすく工夫されている。
 【保護者】 授業参観の姿や生徒(お子さん)の話から、教科学習では分かりやすい授業づくりに努めていると感じられる。
 【職員】 生徒の学び姿や互いの授業を見合うことで、自分の授業の改善を図ることができた。

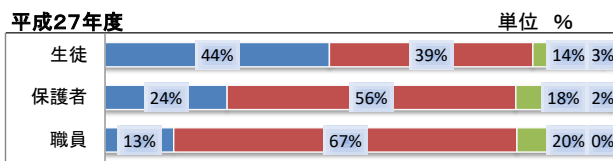
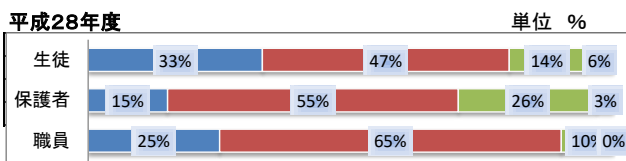


<考察>

職員のA・B評価は13ポイント増加したが、生徒、保護者の評価は、昨年度とほぼ同様である。質問内容が違ってもあるが、職員と生徒・保護者の意識に大きなズレがあるのが現実である。1年生のA評価は比較的高いので、学年が上がるにつれて学習内容が難しくなることが影響していると思われるが、職員の「学び合い・授業改善」が、生徒たちの「できるようになった」という意識に、まだ結びついていないと考えられる。1、2年生のA評価は増加しているので、来年度は、さらに職員の互いに学び合う意識を高め、さらなる授業改善につなげていきたい。

【質問項目4】 補充学習・補習学習

【生徒】 補充学習、テスト前や宿題の補習などを行うことで基本的な問題が解けるようになった。
 【保護者】 補充学習、テスト前や宿題の補習などは、生徒(お子さん)の基礎的な学力の定着を図るために役立っている。
 【職員】 補充学習、テスト前や宿題の補習などを行うことで、基礎的な学力の定着を図ることができた。

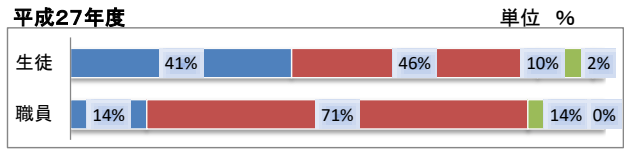
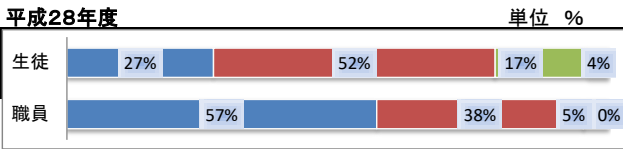


<考察>

3割以上の生徒が補充学習・補習に満足し、8割の生徒が効果を実感している。保護者は生徒に比べると満足度は低いが、7割が肯定的に捉えている。職員は昨年に比べ補習の効果を感じているが、保護者は補習の効果の実感が10%減っている。実際に補習を行い「わかった」「わかってもらった」という生徒・職員の実感と、テスト結果に開きがあるのではないだろうか。テスト前の補習を受けている生徒が全員ではないことを考えると、補習の効果はこの結果だけではわからないとも言える。来年度は、補習の内容を見直し、できる限り時間を確保して、全員参加も含めて検討していきたい。

【質問項目5】 総合的な学習の時間

【生徒】 総合的な学習の時間で、自分から課題を持って学習に取り組むことができた。
 【職員】 各学年の計画に沿って総合的な学習の時間を行う中で、生徒自らが課題を持って学習に取り組むことができた。

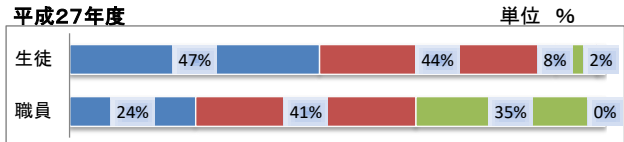
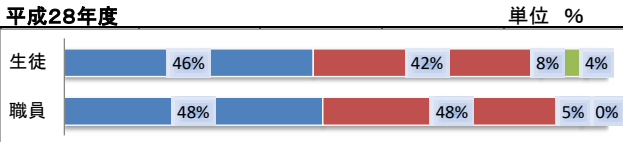


<考察>

「自ら課題をもって学習に取り組むことができた」とプラスの評価をしている生徒の割合は若干下がったが、全体の約8割の生徒が高評価を出している。昨年と比べて、職員のA評価は大きく増えた。今年度の総合的な学習は、内容を見直し、どの学年も個人追究や文化祭での発表方法を工夫し、地域発展のための提言を発信するようにした。そのことが、高評価につながったと思われる。来年度からの和田中との統合を機に、さらに内容を充実させていきたい。

【質問項目6】 学習集会での話し合い

【生徒】 学習集会のグループ活動では、他学年の仲間の考えに学び、協力して活動することができた。
 【職員】 学習集会のグループ学習が円滑に進むように支援することで、他学年との学び合いや協力を高めることができた。

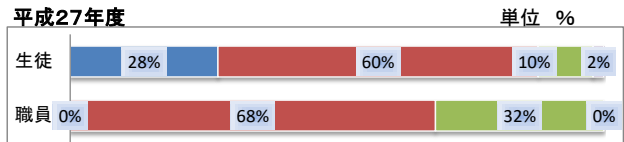
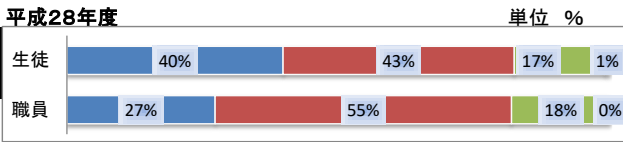


<考察>

職員が学習集会での班活動に意図的に関わることで、職員のA+B評価は今年度30ポイント増と大きく向上した。生徒の評価は今年度も昨年度も90%近くあり、ほぼ全ての生徒が、学習集会での活動に満足していると考えられる。しかし、若干評価が低下しているのは、各班の話し合いの充実度に差があることが影響していると思われる。今後、話し合いを中心になって進める3年生のリーダーへの指導やグルーピングの工夫などを行い、さらに活発に話し合いが行われるような環境作りをしていきたい。

【質問項目7】 授業での「4つの約束」

【生徒】 学習の「4つの約束」(あいさつ・返事・起立して発言・はっきり発言)を意識して授業に取り組めた。
 【職員】 授業での「4つの約束」(あいさつ・返事・起立して発言・はっきり発言)を定着させることができた。

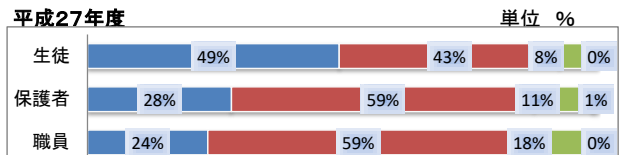
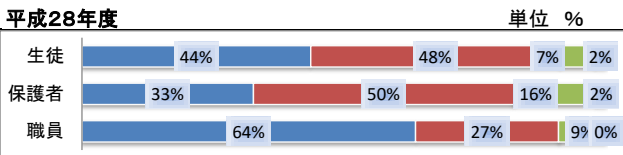


<考察>

生徒のA+B評価の割合は昨年度と、ほとんど変わらないが、A評価の割合が大幅に増加している。職員の評価もA+Bの値が82%まで増加した。生徒・職員ともに授業での4つの約束を重視して取り組むことができたのではないかと考えられる。特に、生徒会主体で、授業時の挨拶向上に取り組んだ成果が見て取れる。今後、さらなる向上のため、「4つの約束」を各教室のよく見えるところに大きく掲示したり、学習集会で確認したりするなどの方策を考えていきたい。

【質問項目8】 集団との関わり

【生徒】 学級活動、生徒会活動、行事等では、自分の役割を果たしながら、クラスのみならず進んでかかわることができた。
 【保護者】 授業参観の姿や生徒(お子さん)の話から、生徒(お子さん)は、級友とかかわりながら学校生活を送っていると感じられる。
 【職員】 学級活動、生徒会活動、行事等で、生徒一人ひとりに役割を持たせることで、生徒が主体的にクラスのみならずかかわって活動できた。

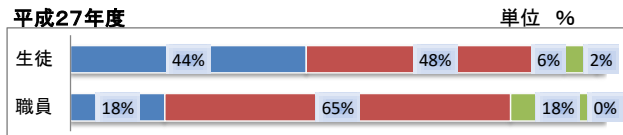
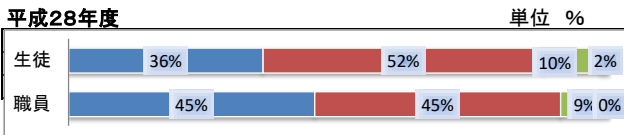


<考察>

A+B評価の割合は、生徒は昨年度とほぼ同様であったが、保護者は若干低下し、職員は向上している。教師は生徒一人ひとりに役割をもたせる活動を意識して行ってきたが、それが保護者の方には十分伝わっていなかったと考える。また、生徒によっては、自分の役割を果たせなかったり、クラスのみならず進んで関われなかったりしたことが考えられる。今後、職員は生徒一人ひとりに役割をもたせるだけでなく、その役割が果たせたかどうかを積極的に評価し、生徒がクラスのみならずかかわって活動できるように、さらに心がけていきたい。また、その様子を保護者の方に発信していきたい。

【質問項目9】 友達との関わり

【生徒】 集団の中の自分の姿や集団のあり方を考えることで、友だちの気持ちを考えたり自分の気持ちを相手に伝えたりしながら、学校生活を送っている。
 【職員】 集団の中の自分の姿や集団のあり方を考えさせることで、生徒が友だちの気持ちを考えたり自分の気持ちを相手に伝えたりしながら学校生活を送ることができた。

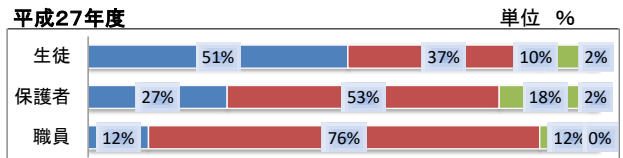
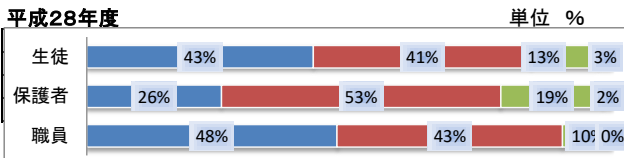


<考察>

生徒のA評価とB評価を合わせた割合は、やや減少しているが、高い数値であるといえる。このことから、自分の意見をクラスで言うことができたり、相手の立場になって考えることができたりと、友達との関わりが上手にできていることがうかがえる。職員のA評価とB評価を合わせた割合は、10ポイント近く増加している。特にA評価が30ポイント近く上昇している。これは、個と個の結びつきを大事にした指導を意識していることの表れであると思われる。しかし、生徒、職員ともにCまたはD評価の回答者がいるので、生徒同士の関わりにさらに注意し、誰もが安心して学校生活を送れる環境づくりに努めたい。

【質問項目10】 達成感や楽しさ

【生徒】 学級活動、生徒会活動、行事、部活動等で、達成感や楽しさを感じながら、自分から積極的に活動に取り組めた。
 【保護者】 生徒(お子さん)は、学校生活の中で、達成感や楽しさを感じながら諸活動に取り組んでいる。
 【職員】 学級活動、生徒会活動、行事、部活動等で、人間関係づくりの場や生徒自らが主体的に活動に取り組む場を設定することで、集団としてのまとまりが向上し、生徒一人ひとりが個々の良さを発揮することができた。

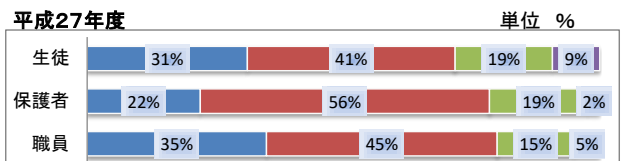
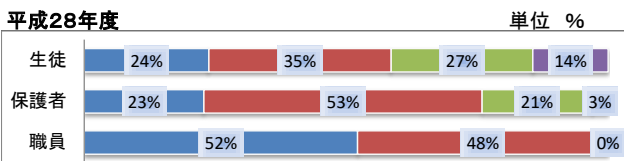


<考察>

A評価とB評価を合わせた割合は昨年度とほぼ同じで概ね高い評価と言える。ただA評価について見ると昨年度よりも生徒はやや下がっているの、さらに充実した取り組みができるように工夫していきたい。職員による評価は昨年度よりもA評価の割合が高くなっており、生徒による評価と若干のずれがあるので、生徒がより達成感を感じられるように、生徒の実態に応じて活動内容の充実を図ってきたい。

【質問項目11】 生徒理解

【生徒】 何かあったときなどに、先生方のだれかに相談することができた。
 【保護者】 学校の職員は、生徒にあいさつや声がけをしたり、何かあったときは相談にのったりしながら、生徒とかかわっている。
 【職員】 生徒を深く理解し支援するために、生徒の実態把握に努め、生徒に声をかけたり相談にのったりしながら、日々生徒と個々に応じたかかわりを持つことができた。

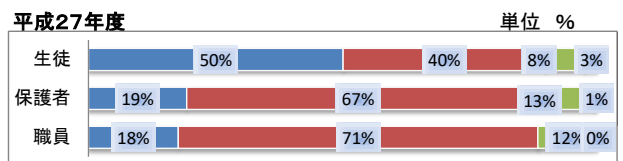
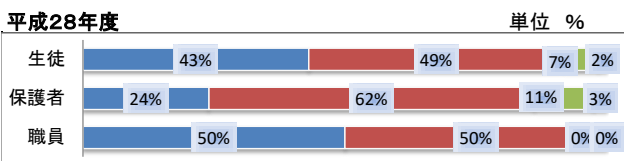


<考察>

職員は生徒への理解や関わりが概ねできたと感じているのに対し、生徒のA+B評価の割合は昨年度に比べ13ポイント減少した。特に3年生のA+B評価が、2年時に比べ大きく下がっていることが気になる。この差をしっかりと受け止めて、個々の教育相談、スクールカウンセラーとの面談などをさらに大切に、継続して相談できるようにしていきたい。保護者のA+B評価の割合も若干減少しているの、今年度から行った、学級担任だけでなく、教科担任、部活や生徒会顧問、学校長、教頭などへも生徒が相談に行ける教育相談の体制を、来年度も整えていきたい。

【質問項目12】 人権教育

【生徒】 人権教育での取り組みや日々の学校生活の中で、人のことを大切に思う気持ちと、いじめや差別のない集団づくりにかかわっていくとする気持ちが持てた。
 【保護者】 生徒(お子さん)は、人権教育での取り組みや日々の学校生活を通して、人のことを大切に思う気持ちと、いじめや差別のない集団づくりにかかわっていくとする気持ちが育ってきていると感じられる。
 【職員】 人権教育での取り組みや日々の学校生活の中で、生徒の人権感覚を高め、いじめや差別のない集団づくりに関わろうとする気持ちを育むことができた。

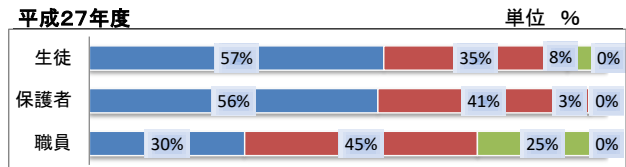
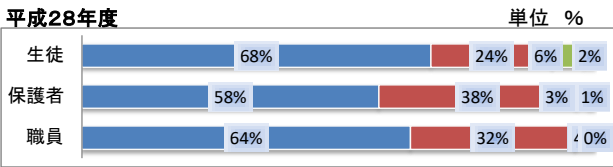


<考察>

生徒の評価は、A評価の割合が若干減少したものの、昨年とほぼ同様の高い評価である。職員は、A評価、B評価ともに50%と高評価になった。日頃の生活の様子や学習の中での生徒の反応などから、人権教育の学習成果を実感しているところが大きいと思われる。保護者のA評価の割合も向上している。しかし、昨年と同様、C・D評価の生徒が約1割いる。このことを大事に受け止めて、一人ひとりの生徒をさらに注意深く見ながら、今後も人権教育に力を入れていきたい。

【質問項目13】 清掃の取り組み

【生徒】 無言清掃を心がけて、清掃に進んで取り組めた。
 【保護者】 来校した際、校舎内外の清掃が行き届いていると感じる。
 【職員】 清掃への取り組みの活性化を図ったりとも清掃に取り組んで現場指導をしたりすることで、生徒が進んで清掃に取り組むことができ

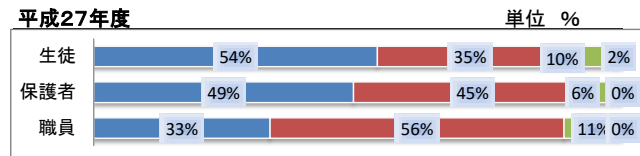
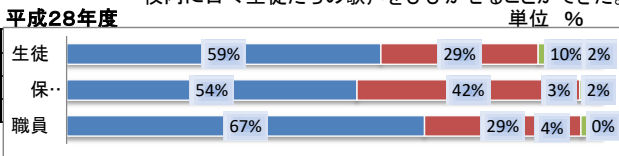


<考察>

生徒・保護者の評価は、昨年とほぼ同様に高い評価である。特に生徒のA評価の割合が上昇し、教師のA評価も多くなってきている。まだ不十分な面はあるにしても、清掃活動が全体的に向上してきていると考えられる。「縦割り清掃」や「黙想の意味を考えさせる」ことを通して一層の向上をはかり、無言清掃を本校の良さ伝統として大事にしていきたい。

【質問項目14】 合唱活動

【生徒】 合唱の発表の場に向けて学年や学級、または全校集会や学年集会等で、意欲的に歌を歌えた。
 【保護者】 文化祭や授業参観での姿、生徒(お子さん)の話から、南中の生徒は、全校、学年、学級での合唱に意欲的に参加していると感じられる。
 【職員】 合唱練習を学年集会や学級の活動に位置づけ、練習の時間を確保したり、発表の場を設けたり、職員自ら合唱に参加したりすることで、校内に日々生徒たちの歌声をひびかせることができた。

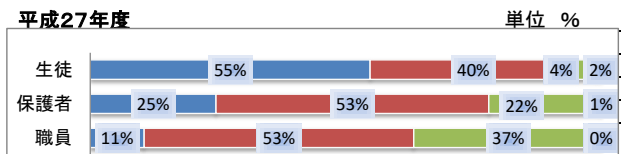
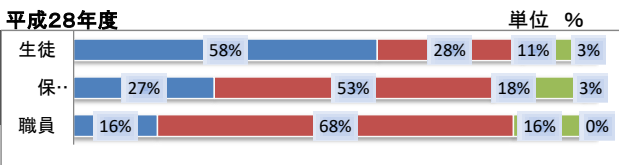


<考察>

昨年度と同様に、A評価とB評価を合わせた割合が高く、A評価の割合は昨年よりも高くなった。合唱活動が本校の大きな柱になっていることを示していると言える。学年や学級での合唱への取り組みから、一人では得られない満足感や充実感を得て、合唱の良さを味わいながら表現に結びつけていくことができていると思われる。また、3年生では2年時に比べA評価の割合が10ポイント伸びている。合唱への取り組みが、本校生徒の3年間の成長の姿をよく表していると言える。活動の目的をより明確にしなが、今後も継続して充実させていきたい。

【質問項目15】 あいさつ

【生徒】 学校や地域で、自分から進んであいさつをしている。
 【保護者】 南中の生徒は、学校や地域で進んであいさつをしている。
 【職員】 学校、学年、学級、部活動などでの指導を工夫することで、学校や地域で、生徒が一人でも進んであいさつができるようになった。

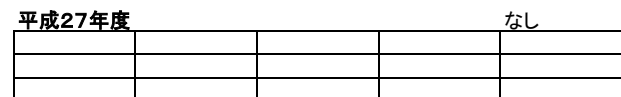
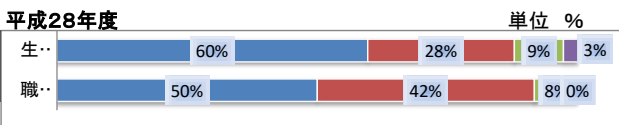


<考察>

生徒・保護者・職員の評価は、昨年度と概ね同様の傾向にある。また、昨年度に比べ、A評価の割合が生徒・保護者・職員全てでやや上昇した。生徒一人一人が学校や家庭で意識してあいさつしようとしていることの表れであると言える。あいさつが、本校の大きな柱の一つになるように、学校・家庭・地域等のどんな場面でも気持ちよいあいさつができるように今後も意識していきたい。

【質問項目16】 下駄箱の靴

【生徒】 自分からすすんで、下駄箱の靴をそろえることができる。
 【職員】 声かけ等の意識喚起によって、生徒がすすんで下駄箱の靴をそろえられるようになった。

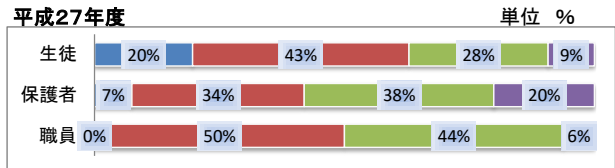
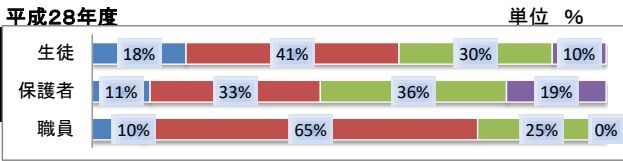


<考察>

今年度、新たに設けた評価項目である。昨年度の項目にはなかったため、アンケート上での比較はできないが、登校後や下校後の様子から向上した様子がうかがえる。上下履きを入れる場所の区別がつき、極端に乱れて入れられている靴も全くなかった。下駄箱に靴を入れる際、一瞬止まってかかとをそろえている生徒の姿も見られるようになった。今後も、「上小で一番の昇降口」を目指して取り組んでいきたい。

【質問項目17】 家庭学習

【生徒】 自学タイムを活用して学習計画を立て、宿題や自主学習をすることで、学年目標時間(1年90分・2年120分・3年150分)の家庭学習を行っている。
 【保護者】 お子さんは、宿題や自主学習などに取り組んで、学年目標時間(1年90分・2年120分・3年150分)の家庭学習を行っている。
 【職員】 自学タイムを活用して学習計画を立てさせたり、家庭学習の方法や内容を指導したりするで、生徒が学年目標時間の家庭学習を行うことができた。

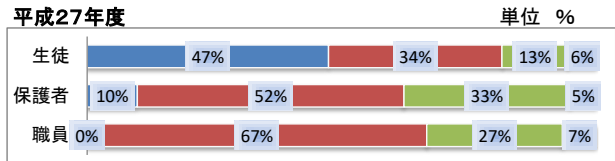
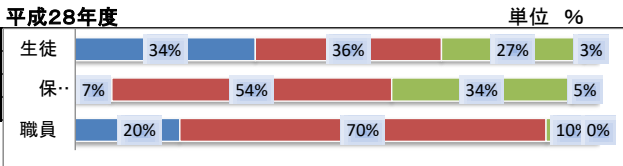


<考察>

職員のA+B評価は、25ポイント上昇しているが、生徒と保護者の評価は昨年とほぼ同様であった。生徒の学年ごとの評価を昨年度の同学年と比べてみると、1学年で+3ポイント、2学年で+7ポイントと若干上昇しているが、3学年では-19ポイントと大きく低下している。保護者の評価では、1学年で+11ポイント、2学年で+6ポイント上昇しているが、3学年では-13ポイント低下している。家庭学習課題も、1、2学年に比べ3学年の提出率が低い。進路実現に向け、さらに学習意欲を高めていきたい。また、職員の評価と生徒や保護者に開きがあるので、今年度から始めた自学タイムの目的を生徒がさらに理解して取り組めるようにするとともに、その取り組みの意義を保護者にも伝えていきたい。また、自学タイムでの家庭学習計画に全職員で力を入れていきたい。

【質問項目18】 生活習慣づくり

【生徒】 より良い生活習慣づくり(早寝・早起き・朝ごはん)に取り組めた。
 【保護者】 生活実態調査などの学校での指導は、お子さんのより良い生活習慣づくり(早寝・早起き・朝ごはん)のために役立っている。
 【職員】 学校の通知や生活実態調査の結果等を活用して指導することで、生徒がより良い生活習慣づくり(早寝・早起き・朝ごはん)に取り組めた。

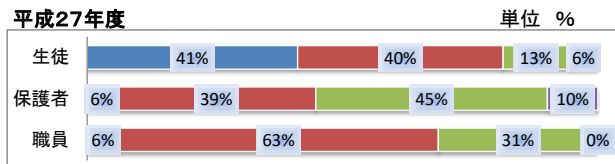
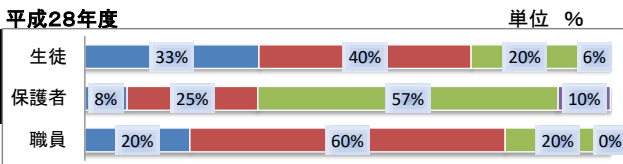


<考察>

保護者は昨年とほぼ同様の傾向であるが、生徒のA評価の割合が低くなり、逆に、職員のA評価の割合は高くなった。昨年同様、生徒と保護者、職員間で評価に差が見られる。職員は、生徒の家庭での状況は直接はつかめないが、生徒の話や学校生活の様子からよい生活習慣がついてきていると判断していると思われる。PTA厚生部による生活実態調査では、ほとんどの生徒が朝食を取れているので、望ましい起床時刻、就寝時刻について学校保健委員会で話し合ったり生徒に考えさせたりして、生徒と保護者の間の意識の差を埋めていきたい。より望ましい生活習慣づくりに向けて、家庭と連携して取り組んでいきたい。

【質問項目19】 メディアコントロールの実践

【生徒】 メディアコントロールの実践に取り組めた。
 【保護者】 メディアコントロールの取り組みは、家庭において家族の会話づくりや学習時間・読書時間を増やすために効果が出ている。
 【職員】 ノーメディアの必要性を指導することで、生徒それぞれの目標を持ってメディアコントロールの実践に取り組むことができた。

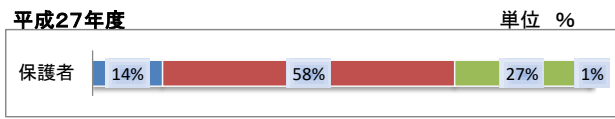
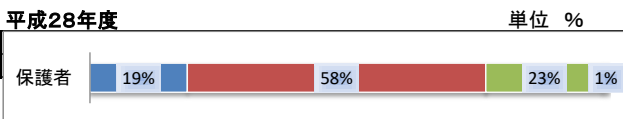


<考察>

A評価B評価を合わせてみると、昨年に比べて生徒と保護者の評価は低くなり、職員の評価は高くなっている。評価の観点がそれぞれ違うため、一概に比べることはできないが、学校でのノーメディアの指導が、家庭におけるメディアコントロールや会話作り、学習・読書を増やす効果につながっていないことがうかがわれる。メディアコントロールについては、ここ3年間は、学級指導の他にも月1回のメディアコントロールデーの実施、学校保健委員会、PTA厚生部の生活実態調査などで取り組んできている。生徒の7割以上の生徒はほぼメディアコントロールができていますので、今後もメディアに依存せずに上手に活用していくために、メディアコントロールを意識させる取り組みをしていきたい。

【質問項目20】 学校からの情報の発信

【保護者】 学校は、各種教育活動に関する情報を、家庭や地域に発信している。

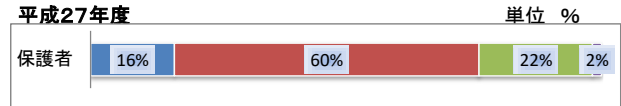
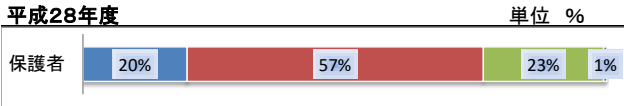


<考察>

昨年度とほぼ同様の評価である。「学年通信」や「学校だより」に、生徒の言葉を載せるなどして各種通信の内容をさらに充実させ、生徒の学校生活の様子がより伝わるようにしていきたい。参観日の学年・学級PTAの場も有効に活用し、ホームページも定期的に更新してより多くの方に見ていただけるように周知していきたい。また、授業公開日を家庭や地域に今以上に周知し、多くの方に学校に足を運んでいただけるようにしていきたい。

【質問項目21】 家庭や地域との連携

【保護者】 学校は、生徒の成長のために家庭や地域との連携を大切にしながら各種教育活動に取り組んでいる。



<考察>

昨年度とほぼ同様の評価である。平成29年度からのコミュニティースクール化に伴い、まず、花菖蒲園の整備を地域の方のボランティアをお願いして行い、花菖蒲園を地域の方と学校をつなぐ憩いの場としていくことを考えている。総合的な学習などでも、さらに家庭や地域の方のお力をお借りして、学習内容の充実を図っていききたい。また、「家庭学習」や「生活習慣づくり」においても、家庭との連携を密にしていきたい。

2. 保護者の方からのご意見について

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。お寄せいただいたご意見やご指摘は、職員会議において職員全員で共有しました。今後の本校の学習活動や指導の改善に向けて、以下のように生かしていきたいと考えています。

【授業改善・学習相談】 「子ども達ももっと興味をもって楽しいと感じる授業をしてほしい。」「先生により、面白い授業とそうでない授業がある。」等、授業改善を求める厳しいご意見やご指摘をいただきました。今年度は、職員が互いの授業に学び合う「授業を見合う会」を授業公開日に合わせて定期的に行ったり、教科会をスライド内に組み込んだりして、教師の力量向上と授業改善に努めてまいりましたが、さらに「楽しくわかる授業」となるよう研鑽を積んでまいります。また、「わからないことを質問した時は、理解できるように丁寧に答えてほしい。」という、教師の対応についてのご指摘も複数いただきました。生徒が気軽に質問ができるような雰囲気づくりに努め、「先生に聞いてよかった。」と感じてもらえるような対応を心掛けてまいります。また、テスト前の補習や学習相談の時間についても、時間の取り方や内容を検討し、さらに充実させていきたいと考えています。

【家庭学習】 「学力アップするような課題や書き取り、プリントなどを増やしてほしい。」「家庭学習のやり方などを教えてほしい。」という家庭学習に関するご意見もいただきました。今後さらに、復習や予習となる課題を課したり、各教科の提出ノートの内容の充実を図ったりして、家庭学習が学力の向上につながるようにしていきたいと考えています。また、今年度より、「自学タイム」を設け、その日の学習計画を立てて家庭学習に取り組めるようにしてきましたが、さらに有意義な時間となるように工夫していきたいと考えています。ご家庭でも、お子さんの頑張りに対して励ましのお言葉をかけていただくなど、ご協力をお願いします。

【職員の姿勢 相談体制】 「熱心にご指導いただき感謝しています。家庭でも本人の心の変化を見守り、成長を応援します。」「担任の先生には、落ち着いた学校環境を作っていただき、相談事も親身になって聞いてくださって感謝しています。」というありがたいお言葉をいただきました。今後も、生徒の気持ちに寄りそい、ご家庭と連携しながら、丁寧な指導を心掛けてまいります。その反面、「生徒の気持ちになり、温かい言葉をかけてほしい。」「先生が、もっと生徒達と交流すべき。」「部活動の指導に対して、保護者や子どもたちに不満や要望があっても、言いづらい環境がある。」「誰に相談すれば良いかと、困っている声を聞く。」等のご意見やご指摘もいただきました。学期に1回行っている教育相談を、担任や顧問以外の職員とも気軽に相談できるものにし、日常的な声がけも心掛けて、相談しやすい環境づくりに努めてまいります。保護者の皆様も何かお困りのことがありましたら、遠慮なくご相談ください。また、「学校を休んだときに、個別に的確なフォローをしてほしい。」とのご意見もいただきました。欠席した生徒への配慮を、今まで以上に心がけてまいります。

【部活動】 「テスト一週間前は、完全に部活を休みにしてほしい。」というご要望をいただきました。現在、テスト3日前から部活なしとしています。また、原則として月曜日はノー部活デーとし、朝部活も年間登校日数の半分の回数になるように各部ごとに配慮しています。さらにテスト前一週間部活動を休止するとすると、部活動の充実が難しくなると思われます。学習と部活動の両立の仕方についても助言しつつ、部活動を行うことで学習に支障がきたすことのないように配慮してまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。また、部活動の運営につきましては、保護者の皆様とご相談しながらすすめてまいりますので、ご心配なことがありましたら、ご相談ください。

【学校生活】 「勉強、学校生活など生活全体において、取り組む喜びや集団生活での達成感などを感じ取ってほしい。」「先生、生徒ともに活気のある学校であってほしい。」というご意見もいただきました。来年度からの和田中との統合を良い機会としてとらえ、保護者の皆様や地域の皆様のお力もお借りしながら、さらに生き生きとした学校づくりに努めてまいります。

【その他】 その他、職員の生徒に対する言動、校外での生徒の挨拶、少人数学習の在り方等についても、ご意見やご指摘をいただきました。改善すべきところは改善し、生徒が安心して快適に生活できる学習環境をつくっていききたいと考えています。
また、和田中との統合に伴う学級編成替えについて、ご心配の声もいただきました。参観日の学年PTAで学校長よりご説明いたしましたが、来年度の4月から新生南部中の良きスタートが切れるように準備を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

3. まとめ

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。今回のアンケートを通して、友達との関わりを大切にしながら、清掃や合唱などの活動にまじめに生き生きと取り組める本校の良さが、改めて確かめられました。その反面、学習内容の理解、学校や家庭での学習への取り組み、授業の工夫や改善、生活習慣づくり等、学力向上に関わる点がやはり本校の課題であると言えます。特に「授業づくり」に関しては、職員と、生徒および保護者の皆様との間に評価の差が見られますので、より一層、生徒や保護者の皆様からの高評価をいただけるよう努めてまいります。

また、来年度からの和田中との統合を機に、和田中と南部中両校の良さを生かし、新たな学校づくりを進めてまいります。今後とも、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をよろしく願います。

調査数	181	161	26
-----	-----	-----	----

